

様式第 9 号（第 9 条関係）

事業報告書

事業名称	生駒市内限定置き配バッグモニター募集施策
事業の内容（効果、実績等を記入）	（１）具体的な内容 目的:物流 2024 年問題に対する消費者意識及び各家庭の SDG s 参画意識向上によるカーボンニュートラルな社会の実現 内容:モニター募集チラシを生駒市内に配布し、（再配達が多い世帯）・（子供のいる世帯と地域に関心を持っている世帯）・（高齢者世帯）の異なる世帯対象に置き配モニターを募集。 モニターからのアンケートや集配担当者のアンケートなど集まった情報を元に地域の方々に向けて、置き配の利便性や 2024 年ドライバー問題、地域で頑張っている団体の取り組みなど SDGs 関連情報について、情報誌を製作して発信する。 （２）目標達成状況及び効果 消費者の意識改革により ①再配達を減らす配慮→確実に受け取れる日時・場所の指定、宅配ボックス・ロッカーの利用や置き配の推進 ②まとめ買いによる運送回数の削減→注文回数を減らすことによる配送の削減 が推進し再配達量が減少。結果として CO2 排出量の削減、生駒市内渋滞の緩和、配送者の効率的な労働に繋がる。 また物流 2024 年問題に対して消費者の許容が広がる事により ・通信販売には送料が別途かかっている事の理解 ・商品値上げに対する理解 が高まり物流 2024 年問題の解決に繋がる。 ・上記問題と現在地域で団体が取り組んでいる活動を繋げる事により地域の課題や活動が周知され 2024 年ドライバー問題に対する消費者意識及び各家庭の SDG s 参画意識が向上する。 本施策を実施し得られたアンケート結果等は添付報告書にて。 ○モニター参加者の約 9 割は、置き配バッグの活用が再配達削減に繋

がると感じており、今回のモニター施策では試算のとおり約 812 キログラムの二酸化炭素排出を抑制することができた。一方で 26 人のモニターが期間中に置き配バッグを使いたくても使うことができなかった結果があり、今まで見えてなかった課題(※各会社独自のルール)が見えてきた。

○置き配バッグの普及についてモニター参加者からの意見を聞くと、置き配バッグの鍵の可否や設置場所に関する安全面と防犯面での不安や、防水や大きさ・形・簡易な使用方法など置き配バッグの商品に対する要望があった。また置き配バッグを使用してくれない配達業者もあったためすべての配達業者で同じ配達データを使用して欲しいや置き配ルールの統一を求める声が多く寄せられた。

⇒単なる置き配バッグの周知だけではなく、大きさや鍵の可否など商品性や販売している場所の情報も含めた周知が必要。また配達業者それぞれが単独で動くのではなくお互い情報共有し消費者が望む置き配ルールの統一化に向けての行動が求められる。

○集配担当者アンケートから簡易型宅配 BOX 等の利用世帯割合は 5.6%とまだまだ普及しているとはいえない、また集配担当者からも現在、お客様の要望に沿えていないので”お客様の希望していることに沿えられるルール作りが必要”との声が寄せられた。

○市民が実践している SDGs の取り組みについて、それぞれ取り組みは違えど全員が実践していた、生駒市民の意識は高い。今後も新たな SDGs に繋がるライフスタイルの提案や周知が効果的である。

○物流 2024 年問題について、モニターの 85%が消費者の立場でも協力できることがあるとの意識を持っている。また集配担当者はそれぞれがどのような影響があつて企業が今後どうすべきかのイメージを持っている、企業としての今後の対応に期待したい。

(3) 参加者の声

●置き配モニター施策に参加した市民の声

- ・置き配バッグから取り出すのに時間がかかり不自由に感じた
- ・置き配を普及させるにはもっと宣伝・周知が必要
- ・置き配バッグは配達車にとって手間がかかるのではないかと・・・
- ・参加して思った以上に便利だった
- ・無料モニターの紹介に対するインセンティブとか実施したらいいのでは・・・

	・再配達 0 になり、個人的に嬉しかった ・これからもずっと利用したいです ・置き配の後、ポストに配達完了の紙を入れて欲しい ・全ての配達業者が統一した配達データを使用して欲しい ・再配達を減らせる物だと感じた、これからも活用したい ・置き配バッグに入れず裸で置いている事があった ・安心して留守にできるのでよかった 置き配バッグに○サイズまで入るか表示があれば配達員が困らないと思う ・いいきっかけになった、今後も積極的に活用したい ・荷物待ち時間削減にもなるので開いた時間を活用できてよかった ・折りたたむのが多少面倒であったがコンパクトで良い ・知らない人が多いと思う、感動した・・・ ・スーパーなど身近な場所で購入できたらと思った ・宅配業者によっては設置してる真に入れてくれない ・玄関先に設置することにより不在にしてると周囲にわかるのではない心配になった ・置き配バッグ購入に配達業者や公的支援金が必要と思う ・受け取り側が置き配を望むような環境作りが大事だと思う ・再配達を減らすことは受け取り側も配達側も 1 回で済みメリットしかないと思う ・配達業者(配達員)に置き配バッグや宅配 BOX の使い方の周知が必要、使ってくれない配達員がいた ・家の中にいても入浴中だったり手が離せない時もあるので便利だった ・置き配バッグを知らない人が多いと思う ・素晴らしい取り組み、感謝、普及に努めていただければと思う ・携帯電話でかくにんしてから配達したらいいと思う ・置き配バッグを設置していたのに配送業者が利用してくれなかった ・再配達の連絡のストレスがなくなりました ・人手不足の解消に協力したい ・郵便局も事前にメールが欲しい ・置き配バッグの強度をアップしたらいいと思う、さびやすい・・・ ・OKIPPA をだしっぱなしにするのは玄関で邪魔になり出来なかった
--	--

	・再配達は双方減らしたいと考えるので今後も利用したい ・置き配取り扱いを配達業者で統一して欲しい ・注文時に置き配バッグ利用を指定できたらいいのに・・・ ・玄関に付けるのが見た目気になった ・再配達してもらえる意識を変える ・食品が置き配できるようになればいいと思う ・便利、CM を流されても・・・ ・雨に濡れない場所やセキュリティ的に安心な場所の確保も必要 ●配達担当者の声 ・宅配 BOX や置き配バッグの大型化 ・使用方法をわかりやすくかんいにして欲しい ・期待していない・・・ ・鍵がついていない置き配バッグがある。鍵を付けて欲しい・・・ ・バッグに住所の QR コードを付けて欲しい ・宅配 BOX が付いているマンション等の BOX の箱数を増やしてほしい (利用者が増えているため満杯の時がある) ・このまま利用者が増えていけばいいと思う ・社内ルール等、お客さまが希望していることに沿える形を取って欲しいと願う ・使いやすいものが増えて欲しいと思う ・とにかく安全性を考えて置き配バッグを作って欲しい ・宅配 BOX や置き配バッグの形や施錠方法がバラバラすぎて時間がかかる事がある。できる限り統一性を持たせて欲しい ・値段が高い、割引や公的支援が必要 ・2 つ以上入る置き配バッグも必要 ・文字通りの簡易 BOX の販売、現状は簡易とうたいながら簡易ではない・・・
事業完了日	2024 年 11 月 11 日

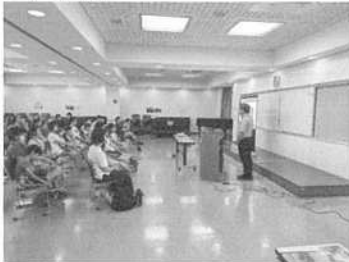
課題	(1) 事業に関する問題点 限定個数に達した後も問い合わせの電話が殺到したことから個数 100 個が生駒市の規模に合わせると少なかったと考えられる。 100 個のモニター品を配布したがアンケートの返送がなかったのが 10 名だった。統計学的には仕方のないところだと考える。 モニター品交付時に連絡先等を聞いておれば精度は上がるが、その分個人情報の管理が必要になってくるのでどちらを取るかは難しかった。 今回、実施してわかった問題点としては、日本には配送業者が複数ありそれぞれに置き配の社内独自ルールがある。配達の情報に配送業者間で共有ができないので個人から全ての配達業者に申請や情報を伝える必要がありそれが手間であったり難しかったりする。 配達員により置き配バッグへの配達経験が違うので情報周知や指導が必要。 (2) 改善策や今後の展望 消費者・各販売業者・配達業者・行政が共通の問題意識を持って同じ方向を向いて取り組んでいく必要がある。 消費者は再配達にならない意識。 商品販売業者は配達日時の指定や配達方法の選択の提示。 置き配バッグ・宅配 BOX 販売業者は、機能面・情報の周知や誰でも買える価格設定・購入場所の設定。 配達業者は、業者間のルール統一化・配達員への情報周知や指導。 行政はそれぞれを支援する体制作り。 まとめ 生駒市民・行政・配達業者が一体となり再配達を削減し働き方改革(2024 年物流問題等)促進、SDGs ライフスタイル推進、暮らしやすい、働きやすい生駒市の実現に向けて取り組んでいきたいです。
----	--

※適宜記載欄を拡大し、詳細に記述すること。

※企画書、チラシ、事業実施時の記録写真等、事業に係る参考資料を添付すること。

事業報告書

事業名称	南極のお話と地球環境を知ろう！
事業の内容（効果、実績等を記入）	（１）具体的な内容 1、「松岡健一」氏による、南極での研究活動のお話から地球環境にまつわるお話 2、南極の景色を VR 画像で視聴 3、南極での生活の様子など極地研究所のアプリを使って、南極を知る 4、環境キーホルダー（自身の目標の SDGS ゴール番号）作り 5、みんなが考える環境を守る取り組みエコアイデアポスター作り 6、南極紹介 DVD 視聴 7、南極にまつわる本の貸し出し（駅前図書室移動図書館） 8、南極の景色と写真撮影コーナー 9、駅前図書室での松岡健一氏による南極での活動風景の写真パネル展示と南極にまつわる本の紹介 （２）目標達成状況及び効果 参加人数は、目標の半数弱（28 名）であったが、参加者は南極のお話では、積極的に質問をしており興味深く聞いてもらえた。VR ヘッドギアは未成年が使用できないため、景色を見てもらうにとどめた。が、臨場感のある景色を見て、お話で出てきた南極を感じることが出来た。子どもたちにとって、自分の出来ることを考え、ポスター作りに取り組んだことや、実際に聞いた地球温暖化の話は、この会の思い出と一緒に今後の日常生活でも行動に現れると感じられた。 （３）参加者の声 南極のお話で、いままで知らなかったことを知ることが出来た。 大人も聞いていて楽しかった。夜の開催だともっと大人が参加できるのではと思いました。 子どもと一緒に講演を聞くことができ、貴重なお仕事の体験談が良かった。地球環境の変化を研究し、データを持って話を聞いたことが他にはない講演だった。
事業完了日	2024 年 8 月 20 日

課題	(1) 事業に関する問題点 親子で設定したため、平日日中に動ける保護者が少ない状況の為、子どもだけの参加方法でもよかったと思いました。また、大人向けの講演を行ってもよかったかと思いました。 (2) 改善策や今後の展望 様々な角度からアプローチし、視覚で認識してもらうことから、自ら考えるまでをその場で行うことが、認識につながると感じました。1団体だけでなく、多くの団体と一緒にすることで、より充実した内容が出来るパートナーシップの大切さを実感しました。こどもたちが興味を持てる内容で、地球環境への取り組みを一人一人ができるイベントを今後も行いたいと思います。
	2024 年 7 月 23 日 図書館 入口  1, お話   4, 環境キーホルダー  5, エコアイデア  6, 南極紹介 DVD  7, 南極にまつわる本の貸し出し 



8. 南極の景色と写真撮影コーナーと写真パネル展示



9. 駅前図書室 写真パネル展示



事業報告書

事業名称	防災マルシェ 2024
事業の内容（効果、実績等を記入）	（１）具体的な内容 2024年9月23日（月祝）に、生駒駅北側のにぎわい広場ベルステージにて、防災をテーマにしたマルシェを開催し、防災に取り組む企業団体等がブースを出し、展示やワークショップ、防災グッズ販売などをおこないました。 当日は、生駒市内や奈良県下で防災啓発に取り組む団体が出展（店）された他、陸前高田市を拠点に復興支援をされている団体および名古屋市で東日本大震災の復興支援に取り組んできた大学生グループをゲストにお呼びし、東日本大震災での経験を踏まえてどのような備えが必要かについて発信しました。 （２）目標達成状況及び効果 来場者数 175 名（クイズラリーカード配布状況より算出） 市民が防災への第一歩を踏み出すきっかけを作ることができた。 実際に大震災の被害に遭われた方や被災地支援に携わって来られた方の生の声を市民に届けることで、より明確に災害の恐ろしさと防災の大切さを伝えることが出来た。 また、自治会の防災啓発担当者の参加もあり、本事業を水平展開するきっかけになったと期待する。 特に今回の大きな成果は、他団体へ事業への協力を通じて、防災を軸にしたネットワークの幅を広げられたことである。このネットワークを生かして、今後さらに事業を拡大して実施していきたい。 （３）参加者の声 「参加しやすい雰囲気も良かった。」 「普段意識していないが、こういったイベントは意識が高まります。」 「奈良は自然災害が少ないのでついつい防災意識が低くなります。 こういったイベントを大々的にたくさんすることは大切だと思います。」等、 普段防災へ意識が向かない市民へ良い効果があったと考えられる。

事業完了日	令和6年10月11日
課題	(1) 事業に関する問題点 通りすがりの人も呼び込めるよう、駅前屋外会場で開催したが、天候に左右されやすく、今回は無事に晴れたものの雨天時の開催について課題である。 雨天時に屋内で開催した場合、防災意識が高くない層へのアプローチについて工夫が必要だと考える。 (2) 改善策や今後の展望 ガールスカウトや生駒市防災士会など、防災に取り組む団体への出展(店)のよびかけを継続的に行う他、ゲーム企画や非常食カフェなど、防災意識が高くない層でも興味を持てるよう内容を充実させて継続開催していきたい。

※適宜記載欄を拡大し、詳細に記述すること。

※企画書、チラシ、事業実施時の記録写真等、事業に係る参考資料を添付すること。

事業報告書

事業名称	チロル堂×リングスター～今日、みんなで地球のことを考えよう～
事業の内容（効果、実績等を記入）	（１）具体的な内容 紙芝居・オリジナルチロル札ケース作り（リングスター）、リサイクルカードゲーム（ゴミの学校）、化学物質アレルギー対応のお菓子作り・エシカルネイルワークショップ・サコッシュ作りワークショップ（チロル堂） （２）目標達成状況及び効果 ・イベントには約500名が来場し、参加者の多くが対馬市のごみ問題についてしっかりと触れるのは初めてだったため、その深刻さに驚くとともに、自身も「できることから始めたい」との意見が多数見られた。特に、対馬市の実際の写真や流れ着いたごみを見るのはインパクトがあり、また、プラスチックの原材料に初めて触れる人も多かった。 ・イベントが終わった後も、デコレーションした自分のケースを使用して来店し、見せにきてくれていた。自分で学びながらデコレーションをしたケースなので、用途に限らず愛着を持って使用してくれていると感じた。 （３）参加者の声 ・（紙芝居を聞いて）対馬の海にごみがたくさん流れてきていることを知ってびっくりした。こんなに大変なことになるなんて知らなかったなので、みんなでポイ捨てを減らす方法を考えなければならなかった。 ・初めてポイ捨てされるごみが可哀想だと思った。 ・（海洋プラスチック配合製品について）ごみを利用していると思えないくらい製品の模様がカッコいいので、ずっと大切に使うことができそう。 ・物を大切にしていれば捨てるときにも感謝を込めて、リサイクルをしたり分別したりして、最後まで責任をもつことができるようになる

	と思う。
事業完了日	2024 年 9 月 30 日
課題	(1) 事業に関する問題点 【参加者の継続的な関与がしにくい】イベントは単発かつ学びのきっかけを作るためのものであり、参加者がその後も継続して自然についてやさまざまな問題に対して関心を持ち続けるかどうか不透明なので、イベントが終わった後に学びを持続させる仕組みが弱いと、関心が一時的なものに留まる可能性がある。 (2) 改善策や今後の展望 【フォローアップイベントの実施で学びを定着させる】単発のイベントに終わらせず、定期的にフォローアップイベントやワークショップを開催することで、参加者が自然やさまざまな問題に対して関心を持ち続けることができるように、チロル堂とリングスターがお互い持っているリソースを活用し、両者の視点からサポートしていく。例えば、生駒市内のイベントに両者共同で参加し、再度学ぶことができる場所を提供する、等。(固定の店舗と製品があるので、製品を店舗に飾っていると「作ってみたい」という声が子どもたちから多く上がったため、学びのきっかけとして2回目のワークショップを行うのは効果的であると考える。)

※適宜記載欄を拡大し、詳細に記述すること。

※企画書、チラシ、事業実施時の記録写真等、事業に係る参考資料を添付すること。